

ニッキン 投信情報

運用会社情報

“最優秀ETF会社”に選出

日興

日興アセットマネジメント（以下、AM）は3月25日、情報サイト「ETF エクスプレスアワード2020」で、アジアにおける最優秀株式ETF運用会社に選出された。受賞は11年間で10度目。同アワードは、投資家や販売会社らの投票により、商品の革新性や運用実績などで優れているETF運用会社を決定するもの。

受賞背景として2019年5月、日本と中国のETF相互上場を可能にする「日中ETFコネク」がスタートした。これを機に、日経平均株価に連動を目指す「上場インデックスファンド225」に投資している中国パートナー企業のETFが上海証券取引所に上場。10月には、シンガポール現地法人が組成した「グローバルインターネットETF」を香港証券取引所に上場した。

日興AMのETF運用残高8.8兆円超（19年12月末時点）はアジア第2位、世界では第10位を誇る。今井幸英ETFセンター長は、「当社のETF商品開発と関連サービスが高く評価された。今後も顧客ニーズに沿った利便性の高い商品開発などを充実化させる」とコメントした。

QUICKと業務提携

日本資産運用基盤

日本資産運用基盤グループは、4月1日にQUICKとの業務提携について基本合意書を締結した。業務系・情報系分野における両社のノウハウや知見を組み合わせ、金融機関のアセットマネジメントや資産運用アドバイスビジネスの業務を支援するソリューションを提供していく。具体的な取り組みとしては、QUICKがゴールベース型投資一任サービスに対応する資産計画策定シミュレーションやアフターフォロー等に用いるフロント業務支援ソリューションを開発し、2020年度に金融商品プラットフォームに提供開始を予定。

日本資産運用基盤グループは、これまでエー・ソリューションズとの提携による内蔵型投資一任スキームの運営（契約管理システム・事務等）やみずほ信託銀行との提携による総合支援型のファンドアドミサービスを展開していた。今回、QUICKとの提携による提案・アフターフォロー支援ソリューションを加えることで、金融プラットフォームや提携する資産運用アドバイザー等の事業運営上のニーズを一気通貫

で支援することが可能となった。

YouTubeでコメント公開

投信協

投資信託協会は3月30日、協会が投稿する「投信協会 YouTubeチャンネル」で同協会の藤野英人理事（レオス・キャピタルワークス社長）と中野晴啓理事（セゾン投信社長）の新型コロナウイルス拡大を受けてのコメントを公開した。

藤野氏は、「ファンドマネージャー経験30年から考えて、どんな災難があっても株式市場は復活して元に戻ってきた。人間の心理として恐怖を感じたときは高値で買ったものを安値で売ってしまう傾向にある。長期的には楽観視することが大事なのでは」と話した。

一方、中野氏は、「活動を自粛することで実体経済は縮んでくる。しかし、一度マーケットを俯瞰して考えてほしい。企業の成長が少し弱まったとしてもずっと続くわけではない。終息と未来を見据えてコツコツ投資することが賢明な投資行動」と語った。

■人事異動

インベスコ・アセット・マネジメント（3月31日）▽監査役（取締役管理本部長）長谷川雅一▽退任・古財義弘監査役（4月1日）▽取締役＜管理担当＞管理本部長兼人事部長（管理本部人事部長）松尾孝▽経営企画本部長・東良和▽プロダクト・マネジメント本部インベストメント・マネジメント部長・米嶋光敏▽経営企画本部コーポレート・コミュニケーション部長・吉澤めぐみ▽マーケティング本部デジタル・機関投資家マーケティング部長（マーケティング本部マーケティング・コミュニケーション部長）橋本泰一郎。

アセットマネジメントOne（4月1日）▽インデックスソリューショングループ長・藤田浩二▽責任投資グループ長・寺沢徹▽ソリューション推進グループ長・寺田浩貴▽DC推進グループ長・下村和彦▽機関投資家営業第一グループ長・鷺見悟▽機関投資家営業第二グループ長・楠田英樹▽機関投資家営業第三グループ長・山下裕一▽金融ソリューショングループ長・實吉隆之▽投資信託情報サービスグループ長・佐藤雄介▽投資信託プロモーショングループ長・伊藤雅子▽投資信託営業第一グループ長・豊田久俊▽投資信託営業第二グループ長・大川達之▽投資信託営業第三グループ長・辰野徹▽投資信託営業第四グループ長・福迫弘晃▽国際営業グループ長・原田規子▽商品調査企画グループ長・野崎慎二郎▽リスク管理統括グループ長・桃田康行▽ITシステム推進グループ長・滝沢太▽事務サービスグループ長・鈴木俊直▽人事グループ長・高橋英志。